

今回は、県外のまちづくりの事例を3例紹介します。

ひと中心のみちづくり「あつみ温泉」(山形県鶴岡市温海)

山形県鶴岡市温海地区は、山形県の南西に位置し、豊かな自然に恵まれ、特にいで湯豊富な「あつみ温泉」の歴史は古く鎌倉時代には湯治場ができ、昭和時代には与謝野晶子などの文人が訪れるなど情緒あふれる温泉街として賑わうようになりました。

そんな「あつみ温泉」の入湯客数も1990年の約35万人をピークに減少の一途をたどります。そこで、1999年に当時の温海町が共同浴場や朝市広場等のハード整備を行い減少を何とか食い止めようとしたのですが、減少に歯止めをかけることはできませんでした。

ここで危機感を抱いた住民は、2000年に「湯のまち景観検討委員会（2001年にあつみ温泉魅力づくり推進委員会に改編）」を立ち上げ温泉街の魅力向上に向け検討を始めました。

今回は「あつみ温泉」で行われた「ひと中心のみちづくり」の事例を紹介します。



整備前



整備後

「あんべ湯」

車優先だった道路を人優先とするため、歩道と車道の段差・境界を無くし、道路の真ん中に温泉情緒を演出する「足湯」を整備。

～ お客さまを大事にする・迎え入れる気持ちを表現 ～



「かじか通り」

所々に休憩スペースを設け歩車一体型の道づくりを進め、「自動車が人に遠慮しながら走行するゾーン」を創出。



足湯には無料の夕刈

温海川の護岸には足湯やウッドベンチによる休憩スペースが設けられ絶好のビューポイントとなっている。



足湯カフェ「チットモッシュェ」



通り沿いに食事のできる楽しい空間ができたことで、日帰り客や新たな客層が増加。建物は町が整備し第3セクターが運営。



手書き看板や花、ベンチ等を地元が設置し訪れる人への「おもてなし」を行っている。

内蔵のまちをみ「くらしっくロード」(秋田県横手市増田町)

秋田県横手市増田町は、県南部、旧羽州街道と旧増田街道の交差点に位置し、古くから宮城・岩手との交通の要衝でした。また水運の盛んだった雄物川へ注ぐ成瀬川、皆瀬川の合流地点でもあったため、交通・物流の拠点として商業が栄え、経済活動が盛んになり商人地主が多く現れました。

現在この地には少なくとも70棟ほどの蔵が残っており、その多くは明治から昭和初期にかけて建てられた豪華絢爛なもので、当時の増田の繁栄を今なお窺わせています。



増田町の商人屋敷は、間口が狭く奥行きが深い短冊型になっていて、切妻屋根の古民家が立ち並ぶ。増田観光物産センター「蔵の駅」で増田町の歴史や町内の蔵の案内を受けられる。またこの地は、秋田の主要銀行のひとつ、北都銀行(旧増田銀行)の発祥地でもある。

増田の蔵は「内蔵」といって、「鞘」と呼ばれる外囲いにより外からは見えない造りになっているものがほとんどです。倉庫や住居として使用されてきたため、これまでその存在はあまり外に知られていませんでしたが、住民のまちづくりの意識が徐々に高まり、今年7月からは毎日数件の蔵を一般公開するようになりました。

また、毎年1回、「蔵の日」には町内の20棟あまりの蔵を一斉に公開しており、毎年多くの観光客が訪れます。(今年は10月3日(日)実施)

漆蔵資料館



元は増田を代表する商人地主だった小泉家の内蔵。現在は稲庭うどん製造販売の佐藤養助商店所有。資料館・御食事処として常時一般公開している。母屋に入るとすぐ、漆塗りの巨大な内蔵が見え、さらにその内部は貴重な材料をふんだんに使用し、職人技の粋を尽した造りの、増田を代表する内蔵。



佐藤又六家住宅



国登録有形文化財の母屋は、防災のため当初から蔵造りで建築されたもの。店舗部分は改装されているが、座敷・居間は建築当初の状態で使用されている。

蔵の駅



旧勇駒酒造を利用した観光物産センター「蔵の駅」。元の酒蔵「宝暦蔵」は国登録有形文化財で、コンサートなどに利用されている。

増田町の「内蔵」を活用したまちづくりは、まだ始まったばかり。空き店舗の対策や、道路・建物の修景など、解決すべき課題は少なくないと思います。全国的にも稀な蔵の密集地帯、増田町のこれからの取組みに期待したいです。

みちのく小京都、角館伝建地区 (秋田県仙北市角館町)

秋田県仙北市角館町は、県の東部中央に位置し、元和6年（1620年）に秋田藩の支藩としてこの地を治めていた芦名氏によって城下町が造られました。

北側の城山に面する位置に武家町（内町^{うちまち}）、南側に商人町（外町^{とまち}）を配置し、その境を“火除け”とよばれる土塁で分断し、武家町を城郭の一角とする構造を作っていました。

現在でもこの当時の街割は大きく変わっておらず、特に内町は道路幅から曲がり角ひとつまでそのままです。また火除けの跡には現在市役所庁舎などが建っています。

内町には黒板塀の向こうに広々とした敷地の区割りになっており、築200年近い武家屋敷がそのまま保存されています。また通り沿いにはシダレザクラの巨木が続いていて、緑に囲まれる歴史街道といった風景です。この表通りが昭和51年、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、文化財として保存されています。

また、武家町のそばを流れる桧木内川沿いには、約2kmにわたりソメイヨシノが植樹されており、国の名勝に指定されています。桜の季節の角館にも訪れてみたいですね。



伝建地区の「武家屋敷通り」には、通り沿いに黒板塀が続き、歴史ある武家屋敷が建ち並んでいる。

多くの観光客が訪れており、外国人旅行者も多かった。

アスファルト舗装と、車両の通過が多いのが残念。



人力車での観光案内が行われている。

車夫さんの案内を受けながら、徒歩とは違った目線で眺めることができる。



通りには石張りの水路が整備されているが、水は流れていなかった。

常時流れていると、さらに風情が出るのでは？



岩橋家



小田野家

地区内の武家屋敷は、中級～上級武士のもので、緑に囲まれた趣ある屋敷は、江戸時代そのものの風情。

この地区では、その風情を利用して有名な時代劇映画の撮影も行われている。

ふくしま軽トラ市まっぷ のご紹介

軽トラの荷台を店舗にして、新鮮な農産物や地場産品などを販売する「軽トラ市」。数年前に岩手県や宮崎県などで始まったこの取り組みが、福島県内の各地でも開催され、まちなかを賑わせています。

県では、各地の開催情報を一元化してPRすることで、来客者増加、開催地域間のネットワーク化の推進、他地域への普及を図るため、『ふくしま軽トラ市まっぷ』を作成しています。

まっぷを持ってふくしまの「軽トラ市」に行ってみませんか？



福島県まちづくり推進課のホームページで公開しています。

<http://www.pref.fukushima.jp/machi/>



柳津町



矢吹町軽トラ市に桑折町の団体が出店しました

次回開催

- 9/19 (日) 矢吹町
- 9/26 (日) 桑折町
- 石川町
- 10/6 (水) いわき市植田
- 10/9 (土) 猪苗代町
- 10/10 (日) 大熊町
- 10/24 (日) 柳津町

メールマガジン登録受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン(無料)の登録をご希望される方は



1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、まちづくり推進課のメールアドレス (machizukuri@pref.fukushima.jp) まで希望する旨ご連絡下さい。

「編集後記」

「まちづくり瓦版～うつくしま、まちづくり推進レポート～」(Vol.36)はいかがでしたでしょうか？

今後とも各地のまちづくりの取組事例の他、街路・公園等の事業紹介、イベント等の情報提供など、より充実した内容にしていきたいと思っております。

取り上げてほしい事例や写真、ご意見・ご感想などございましたら、遠慮なく是非お寄せ下さい！

【発行元】 福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670 (住所記載不要です)

TEL 024-521-7510

FAX 024-521-7956

e-mail machizukuri@pref.fukushima.jp

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>